

## 「ベルメール」

我々の運動が名実ともに立ち直りさっこからぬ一年となる。多くの事が語られ、教多カテモを経験した我々のシロは、今はもう春の夜の夢のごとく忘川に流れたりうるをえき。だが、それはありまえなのだ、大概的かつ結構的をもつていぶった斗争の位置づけ、外面的争いを前にしただけのラモ、徹底的絶叫もある集会など川一つとっても我々の現実の生活をと川がうなじる日本政治問題とかりに川たところが我々生きていたのだった。

我々に大學に対する反対を転化せしめた大學主張、そしてそれを以て必要とせざらを得ず日本市民主義の政治、經濟、社会体制の歪曲化と暴力化、日本にひらがるアリのキャラクターの斗争を希求した。敵ブルジョアジーの埋葬は、終焉不動車の介。いや、我々の斗争がにせものにありすぎなのだ、斗争の代用品を費用しきりだのだと、この内面的進化をがちとらず、自己絶対化の土に斗争の代用品を廻転しても絶対に失本のだということがはっきりわかった。

我々の學園は、以前にもましてブルジョアジーの毒氣におかされたりして、我々を不十分ではある斗争にかりたてた原因は自ら解消されていなり。いや、それは必ず新たなる本ぞよいの下に廣められることある。

そらういう情況の内で我々の學園はどうな

## 連合戦線(等)

1970.10.1

つこいよげについてアシネック度をゴマカシ、「斗争」の目標をのりうつしていく一部の諸君がいる。小学校の政治技術をマルクス主義の言葉でかざり立てるなども毎年の盛大斗争の経験牛糞々とこう言っている。「無条件斗争の力がえれ、諸君がおいかとめている新しい政治目標の獲得を破滅させ、さらに諸君等の戦略、藝術、組織等をも破滅させよう」と。

学園の連帯をどうしてはすか、学館をどうして解するか、そして、これらの現象の根本であるブルジョア大学をどうやつて解体するかが今こそ真実味をもつてと川に川だ。

スッキリとした風景がありが今日の集会をその出来気に引きる。

## 中教審大学ナゾ

### 学食解説

### 入管三法案批判

(文責 三世田)

## <組織論> 提起

No.1

我々は、19年の明大金二部決斗の組織論的結局を一つの軸にして新たなる我々自身の斗争組織を構築すべき時にきたと考える。二戦斗において最も顕著に見られたクラス斗争委等々との違いで他にはあまり見るべくもなかった我々自身の対権力を実質上に存することが出来る斗争組織の構築がいとがれしている。名セクトの家父長的融合・統合断固を否し、「指揮」と「被指揮」の關係を止揚し眞に仁々人の連帯できる組織、そのキラキラ組織にそがる年代層階斗争にたえることができろし、1人1人の人間が全存在をかけて対権力斗争を實現できることであろう。名セクトがヒステリックに宣言している前後党建設論は、もはや現代における変革の実践上ただ自説派のヘゲモニーしか見てない一端の思いあがっている集団の言動としてしか大衆にはラフラ存しておこう。

我々が、今最も生かすべきことは、日々進展しつつある日本帝日主又の動向に対する抗争しあうことが出来る我々自身の斗争組織の本策本のだ。もちろん、その斗争組織の内実は、現存の主体的、客体的条件に制約されるものに存るであらうことにはまちがい存り。しかし、いかに不十分であれ、19年の明大斗争の組織論的結論を批判的に取ることを通じ新たなる斗争組織を建設し存けりば存れり。

我々は、マルクス主義を参考する各宗派

の家父長的斗争組織を拒否した。所が、どのキラキラ組織形態が、何故にそりだにところから抜け出けりば存れりのか、

スター・リニストの官僚的集中主義の姿を断固止揚し眞のプロレタリア前後党を建設するのだと意気こんどりるマルクス主義又諸セクトの組織を近くにあつてつぶさに見てきた我々にとって彼等のと本元る「プロレタリア前後党建設論」の実性は、そのスローガンとほらけらに血とみじめをものであったことよ。「指揮と被指揮」のたて主が、支配と被支配の現実に転化し、まさに地政に上戸部を頂点とするヒューラルヒー的組織が民主集中制の名目のもとに行動していたのである。上戸部の指揮とは、内実は御託であり、斗争強度などは一度もせじめに大家的に討論されしたことなどはなかった。上から下まで完全に統制された宗派集團、それが、諸セクトの眞実の組織形態なのである。非解放的であり、中領性に富む狹善排外の組織がどうして人間の解放をめざす斗争を貢献することが出来よう。彼等の組織のスター・リニスト的本質を断じて再生產しては存れまい。思うに彼らがどんなにスター・リニスト党を止揚しようとしても黨の原理を指揮と被指揮、民主集中制におくかぎり存行主義におちいりざるを得ないであろう。そりは自らがスター・リニスト党と存ること本のだ。

我々は怒考する。

井として、人民生業車と日本ペルジヨアジーと斗争し勝利を負ふこと年々車のところうらが。次に川生さんと日本ペルジヨアジーの車のところうらが。

伍牛、アヌエイジの運営におけるブルジョアジーと争う。組織の他に盾も持たない「プロレタリアー人は、意識的であり、組織的であり、まとめて組織に付けて手をつけて組織化と実行するのである。プロレタリアー人の側に勝利を得たための条件は、彼等に付けてくる意識、組織、組織等々をうちどこがござる。キラトすること、ながれども、ブルジョア支配階級をもろかにしのく事を有効に組織する以外にはありますまい。」である。建設は、今、向かっているのはその予兆である。諸セクターのキラト運営室を経由し、指揮と指揮により理念を押しつける組織もまた意味があるし、批判的ござるだらう。彼等は、人民の友をキモいつつ、人民に対するカイントをいつつある。スターは人々を社会主義者の方へ。

我々の表題ナシ新劇は、所トクも生活の運営から発する人民の自能性と表情を重んずるものぞ車川(せりかわ)と車(しゃ)。意図ある分子が大衆を指導してけり(せり)年(ねん)1)という神話的工夫の藝術館へおこづな車川(せりかわ)と車(しゃ)。それ故に、我々は、諸仙人の自由連合的生活をめざす。と車川(せりかわ)・諸仙人の存在形態と行動規範の実能を土壤(じようりょう)させしものに車子(しゃこ)であるうし、半たうさせ車川(せりかわ)と車(しゃ)。す本(ほん)も、車女(しゃめ)在(い)る形態が運営を持つ諸仙人を、一つの目的を廻(まわ)して結合させ真(まこと)に人民の運営と統合した半神半魔が現在(げんざい)14年(じゆねん)のぞ。

代行主義を主張し直選民主主義の斗争組織を構築すること、何よりも各人の意識を重視、討論を媒介化することによって対象に対する行動の意味をしつくりと認識し、そして革命の最も重要な問題、すなむち自己の変革を争の過程において最大限に追求することを可能にしようとする。

我々の持つる斗争組織と川内自立をめぐらしつゝある名人の自由連合体の結合がありうるだろう。革命的自立主義者連合組織(新体)とそれが我々の組織の内容を表現する最もふさわしい組織となるだろう。

以下我々の運動をうへて種々の運動のスロー-ガードを  
確立せん。

1. ちが連合組織は、その発生以来多くの信頼会に対しても、アリバードの問題を川本がしてきた資本主義に対するし、人類社会の新しい未来を決意を持つて、うそ者にむかふがである。
  2. ちが連合組織は、資本主義の新たな在り方——アルジョアジーの新しい道路を世界貿易上あらそえ、その準備組織が今後の日会に英会川入管法案にあることを譲り、その具体的な希望のために努力をあげてやう。
  3. ちが連合組織の組織本部員は三百、四大事務の学生で構成し、連合、組織運営を承認するもののが二十九であるとか加入することができる。
  4. 連合組織は、本部員の内から若干名の事務局員を抽出し、連合組織の事務を一任する。連合組織の代表者は若干名がく。事務局員、代表者は本部員の大会にキヤマ会に、又解任することが出来る。
  5. 行動提唱は、本部員の内から二つもでき、大会と川を全本部員の審議にかけることによって、連合組織の行動を定とする。各支会との統一、支局行、教の全ての重要な問題が大会にキヤマ会に決定される。